

# 習志野市立図書館 児童資料の選定に関する基準

(平成5年3月8日 館長決定)

## 第1条 目的

習志野市立図書館資料の収集・保存に関する方針（平成5年3月8日教育長決定）に基づき、児童資料の選定基準を定める。

### 第1章

## 第2条 組織と責任

各図書館に児童担当職員を配置し児童奉仕部会を構成する。児童奉仕部会は定期的に開き、資料に対する情報交換、除籍・保存の検討、新刊図書の評価などを行う。

## 第3条 利用者からのリクエスト等

蔵書に対する利用者からの要望や批判及びリクエストは、積極的に受け止め収集方針に照らして検討し、原則としてそのリクエスト等について実現するように努力する。収集方針にそぐわないリクエスト等は提供しないこともある。

## 第4条 資料の範囲

資料は原則として児童を対象に出版された本を選定し収集する。しかし、成人向けに出版されていても、子どもが関心を持ち読むことができる本は蔵書に加えることがある。また、子どもの読書に関する情報を提供してくれる本も収集する。また、子どもの本と子どもの読書に関心のある成人に向けて専門的な以下の本も収集する。（研究書、逐次刊行物、参考図書、貴重書、歴史的にあるいは児童文学の研究において価値のある本）

## 第5条 評価の基本

- 1 図書は蔵書全体との関係において評価し、その本自体の価値だけではなく、他の代替本、類似書がないかにも注意する。
- 2 受け入れた本については、その後の子どもの利用状況や子どもたちの評価や利用状況を見ながら、継続的にその本を評価していく。
- 3 評価の高い本は、常に書架にある状態にしておかなければならない。このために、複本を揃えることが必要になってくる。何を何冊ずつ購入するかは、子どもの要求、図書費・スペースに基づいて決める。また、他の本との関わりあいを見て行う。特に楽しみのための本や一般に子どもたちが興味を持つ分野や主題の本は、複本を増やすように留意する。
- 4 製本・装丁及び印刷がしっかりしているものとする。

## 第6条 資料の更新

資料の評価は、選定、収集時のみに行われるものではなく、配架後の利用状況や評価を継続的に注視して行くことが大切で、以下の項目によりバランスのとれた蔵書構成を保つて行くようにする。

- 1 除架

子どもが手に取りたいと思う新鮮で魅力的な蔵書を保ち、児童室の書架を使いやすい状態で維持して行くために入替えを行う。一冊の本を入替えする際は、蔵書全体の中での位置づけ、その本の歴史的・資料的価値をきちんと考えて除架する。

## 2 買い替え

蔵書の核となる基本図書を入替える場合は、その本より良い版か、又は絶版とになっていないかを調べてから行う。

基本図書の周辺に位置づけられる本の再評価は慎重に行う。例えば、子どもの反応を見ようという観点から購入したもの、ノンフィクションの分野で類似本がないという観点から購入したものなどは、反応や同じ主題でより良い新しい本がないかなどを調べて買い替えを行う。

## 第2章

### 第7条 対象別資料選定基準

#### 1 幼児期

幼児期全般にわたり絵本を中心に収集するが、読み物も収集する。

##### ① (1～3歳)

親子の暖かみを通して言葉を覚えるようになり、人と人との触れ合いを楽しみながら言葉への興味を持つようになる。この時期は、子守歌、わらべ歌、初期の認識絵本等や、親子関係から兄弟友達との横の繋がりもでてくるので、簡潔な言葉で書かれた物語絵本も収集する。

##### ② (4～6歳)

以前より活動的になり、行動力もつき、複雑なことがわかるようになるので、より複雑な物語絵本、やさしい読み物も収集する。また、どの子どもも自然現象に興味や好奇心を持ち、ごく自然に科学の本を楽しめる素地を持っている時期であるので、知る喜びや関心を育むためにも幼児向科学の絵本も収集する。

#### 2 小学生

##### ① (1～3年)

絵本から読み物へと移行する、いわば文字をたどり読みする時期で、まだ大人に読んでもらう必要がある子、また一人で読めるようになった子のために、大きい活字、挿絵も入った読みやすく楽しく質の高い本を複本で十分にそろえる。

行動範囲が広がるにつれ、興味関心を持つ分野も広がり深まりを見せるので、やさしい知識の本も収集する。

##### ② (4～6年)

読書の楽しみが理解できるようになる時期である。自分でどんどん読みだす子と、読まない子が別れてくる。しっかりした物語を読み始める子どもたちに、基本となる図書を複本で揃える。

物事を深く考え理解できるようになり、特定分野に対する関心が深くなる時期

である。文学は、本格的な楽しさを味わえる定評ある長編やシリーズものを収集する。知識の本については、詳しい説明、図解があるもの、時には、わかりやすい一般書も収集する。

### 3 中学生

概念的な思考力が延び、読書の領域も広がる時期であるので、中学生のあらゆる興味や情報への要求、レファレンスに応えられる様々な資料を収集する。

### 4 ヤングアダルト

児童と成人の中間に位置するヤングアダルトの要求を的確につかみ、音楽、映画、スポーツ、ファッション等ヤングアダルトの関心が集まるジャンルのものも、広く取り入れるよう配慮する。ただし、資料としては一般書とする。

### 5 成人

児童書を理解するための研究資料として、児童文学研究書やこれに類する資料を揃えておく。

わらべ歌、民話、伝承遊びなど、保護者、教師、保育者からの要求の多い分野の資料は幅広く収集する。

### 6 障害児

障害の程度が各々違う子どものために、それぞれに合った資料を収集する。(録音図書、点字本、大活字本等)

## 第3章

### 第8条 分類別資料選定基準

#### 1 絵本

絵本は子どもが長い読書生活をするための重要な時期に出会う最初の本であり、かつ、利用も多い。そのため、質量ともに十分に揃えることが必要で、次の項に留意する。

- ① 絵が見るものに訴えかけるものを持っていて、かつストーリーを持っているもの。
- ② 絵と文が一体化されており、ストーリーが子どもにふさわしいもの。
- ③ 構図がしつかりしていて、色使いも子どもにふさわしいもの。
- ④ 子どものために出版されたもの。

#### 2 昔話、伝説、神話

昔話は民俗学からの視点ではなく、子どもの文学の原点として位置づけて、積極的に収集する。また、定本になっているものは定評ある再話者が編集したものを中心に、読み手の発達段階を考慮しながら多くの種類を収集する。

民話の持っている内容（主題、筋運び、人物像）と、形式（語り口、ことば）を正しく捉えており、優れた原話の再話であるもの。

各国、各地方の資料を幅広く集める。

伝説、神話は出版量が少ないので、留意して集める。

### 3 0類 (総記)

百科事典、年鑑類は、最新の正確な知識に基づいて編集されており、かつ、児童にとって使いやすいものを収集する。

### 4 1類 (哲学)

正しく豊かな人生観、世界観、宗教観が、養われるような内容で児童が理解しやすいもの。ただし、内容が偏向的なもの、特定の宗教に偏ったものは、避けるよう十分注意する。

### 5 2類 (歴史)

#### ① (歴史)

日本史の通史は、正確で信頼性の高いものを収集する。

近代史、現代史は教科での学習が不十分な場合があるので、注意して選定する必要がある。

歴史観の相違から記述に差があるため、異なる出版社の一定水準に達した図書を数種類揃える。

戦争については、科学的、実証的に書かれた本を収集する。

考古学、遺跡に関する資料を収集する。

#### ② (伝記)

物語性を重視し、被伝者の行動や業績を通して性格や生き方を伝えるものを収集する。

伝記は歴史研究でもあるので、時代背景が理解できる中高学年の読者を対象にしたものを収集する。

幼年伝記の選書にあたっては、偉人伝ではなく、事実を正確に伝え叙述してある図書を収集する。

人名事典、人物事典も収集する。

#### ③ (地理)

国内及び世界各地の自然、暮らし、産業についての図書を収集する。首都圏及び千葉県に関する資料は積極的に収集する。

修学旅行や社会見学に役立つ資料に留意する。

地図に関する本、地図帳も収集する。

### 6 3類 (社会科学)

社会のしくみ、人間関係、民族、職業等について、正確な知識や情報が盛り込まれているものを収集する。

日本及び世界の暮らし、年中行事、祭礼、食物や服装の歴史など社会科の単元にも配慮する。

### 7 4類 (自然科学)

自然界の様々な現象を研究する学問で、天文学、物理学、化学、地学、生物学、医学の分野まで含む。人間も自然界の一部であることを認識したうえで抱く疑問に、わかりやすく応えてくれる資料を収集する。

一度破壊された自然環境が元に戻るには、大変長い時間がかかるので、環境保護の重要性を示す資料を収集する。

自然に対する興味や関心を深め、自然へ誘う資料を収集する。

旺盛な知識欲に応えられるよう、多様なテーマの本を収集する。

発達段階に応じた科学絵本や資料を収集する。

科学技術の進歩に合わせて、新しい情報を扱った資料を収集する。

子どもは体の変化に深い関心を持つので、科学的な人体の本を収集する。

性と生殖、誕生についての本は、科学的で簡潔かつ人間の尊厳を守るよう書かれた本を収集する。

## 8 5類（技術）

最新のデータ、情報に基づいて、正確に書かれた本を収集する。

技術書のほか社会的、歴史的観点から論じた本も収集する。

エネルギー、自然保護、環境問題の本は、様々なレベルの本を幅広く揃えておく。

子どもに人気のある乗り物の本は、十分に種類を揃える。

家庭科の学習に役立つ資料を広く収集する。

## 9 6類（産業）

社会科に関連した部門でレファレンスも多いので、各産業について基本的な知識が得られるような資料を広く収集する。

ペットの飼い方等の本は、実用性の高い本を収集する。

交通、運輸、通信の本は需要が多いので、種類を多く収集する。

## 10 7類（芸術）

芸術については、基礎的な鑑賞入門及び実技指導書を中心に収集する。

レファレンスの多い各種伝統工芸の本を揃えておく。

工作の本は幅広く収集する。

レクリエーション、娯楽については、流行があるので、その動きに注意して収集する。

漫画、劇画は収集しない。

各種スポーツの歴史、ルール、練習法の本を揃える。

## 11 8類（言語）

ことばの大切さを知り、国語に対する興味を喚起させるものを収集する。

漢字、作文、方言などの本も収集する。

ことば遊びの本など、楽しみの要素の強い本も収集する。

辞典は、国語、漢字、英語の学習に役立つものを数種類揃える。

子ども向き外国語入門書も収集する。

## 12 9類（文学）

幼児から中学生まで、どの年齢の子どもにも応えられる本を揃える。

古典から現代の作品まで幅広く揃える。また、古典、伝説は文学として一定の評価を得ており、現在まで子どもに読み継がれ、かつ現代的意味を有するものを揃える。

健康で明るく人生を肯定し、人間を信頼するヒューマニズムに裏づけられたものを収集する。

読書に不慣れな子に向けて、やさしく読みやすい図書も収集する。

読み物は、シリーズを纏め買いするのではなく、一冊ずつ検討して収集する。

古典のダイジェスト版は、原作に忠実であり、文学的基準を備えたもののみを収集する。

文学史、詩歌、戯曲、随筆、ルポルタージュも収集する。

## 13 児童書等研究資料

子どもの本と子どもの読書に関する情報を提供してくれる資料を収集する。

児童文学論、児童文学史、作家研究、各種リスト（推薦図書リストテーマ別リストなど）等を収集する。

児童心理学、児童文化研究等の分野の本でも、児童文学や子どもの読書に関連した研究を扱ったものを収集する。

## 14 郷土資料

習志野を理解し、ふるさと意識を高めるのに役立つ歴史、自然、環境、産業等に関する資料を網羅的に収集する。併せて、京葉地区、千葉県全体についての資料も収集する。

子ども向きの郷土資料は少ないので、一般資料でも必要なものは収集する。

パンフレット、リーフレット類、地図なども収集する。

## 15 翻訳図書

原文の意味を正確に伝え、また、原著についての解説がついているものを収集する。

## 16 外国語資料

外国語の図書も必要に応じて収集する。

### 附 則

この基準は、平成5年4月1日から施行する。